二科

秋季

発行人：吉野　毅　発行：公益社団法人 二科会
https://www.nika.or.jp/　TEL：03-3354-6646
E-mail：nika@nika.or.jp

No.87 contents

2　第110回記念展を迎えて
3　〈絵画〉記念展を盛り上げた参加型第110回二科展
4　〈絵画〉表現価値に優れた作品群
5　〈絵画〉第110回記念二科展 受賞作品―制作の視点
6　〈絵画〉私の選ぶ作品寸評―第110回会場から
7　〈絵画・彫刻〉第110回記念二科展 受賞者
8　〈絵画・彫刻〉新会員紹介
9　〈彫刻〉総評
10　〈彫刻〉第110回記念二科展 受賞作品―制作の視点
11　〈彫刻〉第110回記念二科展 受賞作品寸評
12　event memo
14　第110回記念二科展 特別講演「"新生二科"を標榜して」
　二科ショップ・チャリティー報告　訃報
15　2027春季二科展へ向けて　2027春季二科展 選抜出品予定者　訃報
16　訃報　トピックス　事務局だより　編集後記







110th






110TH NIKA ART EXHIBITION 2026



第110回記念展を迎えて

吉野　毅

本年二科会は、第110回記念二科展を迎えました。各部の協力と尽力により、昨年を上回る70,146人の来場者を迎え、盛会のうちに終了することができました。

二科会は20世紀初頭から、常に時代の最先端を認識し、最前線を歩いてきました。現代を創造する者と、新しい表現の自由を擁護し、一貫した二科の伝統精神を守りながら、一流一派式に会の方向性を限定する態度を採らず、展覧会場は一年間の勉強の成果を戦わせる土俵として、出品者に制作上の擁護をしながら多くの作家を育ててきました。

二科展は、絵画と彫刻から成る公益社団法人二科会と、一般社団法人二科会デザイン部、一般社団法人二科会写真部の三つの組織によって構成され、運営されています。

第91回展までは、東京都美術館と上野の森美術館で開催していました。東京都美術館の展示会場が狭く、上野の森美術館にも展示されることになったのです。

第92回展の初日、絵画、彫刻、デザイン、写真の4部が同じ会場で展示され、特にデザイン・写真の作品が見易くなり、とても嬉しかったことを思い出します。

第110回記念二科展

2026. 9. 2〜14　国立新美術館



吉野 毅 理事長











1：絵画2室　2：絵画15室から彫刻会場へ　3：絵画部審査風景　4：会場にて講評　5：オーディエンス賞はU35 西川美優さん



絵画部 審査会　2026年8月24日

絵画部 記念展を盛り上げた参加型第110回二科展 ―二科は元気だね―

山中 宣明

第110回記念二科展は吉野理事長新体制での初の二科展でしたが、会期中終日賑わいを見せ、昨年より入場者数も増え大入り袋も配られる等、記念展にふさわしい盛り上がりをみせ盛会のうちに幕を閉じました。

絵画部では団体展の出品者減少の状況下にあってほぼ昨年通りの出品者があり、初出品やU35の出品者も増加の兆しが見えてきているのは、ひとえに全国の支部や会員の出品奨励や後進の育成の絶え間ない努力の成果であり、他団体や入場者からも「二科は元気だね」の声が聴こえてくるのは大変ありがたいことです。

展覧会の運営の観点から見ますと、盛況の要因として、参加型二科展のコンテンツが充実し定着しつつあることが挙げられます。

参加型というのは、我々出品者の参加意識と入場者の展覧会への参加意識の二面が大切だと思います。

吉野理事長自ら二科への想いを語る講演、加覧広報部長の進行で中原名誉理事や受賞者によるギャラリートーク、作品研究会、熊本県の支援や義援活動のための会員によるチャリティー展など、会員が作品以外のイベントでも積極的に参加してくださいました。

また塙事務局長や事務局スタッフ、広報部が提唱した入場者、鑑賞者の展覧会への直接参加を目指した人気投票によるオーディエンス賞、絵画・彫刻など会場の見どころを一巡するクイズラリー等は入場者に大変好評でした。作品をただ見るだけでなく、さらに自分の審美眼で一票投じたり、もう一度じっくり会場構成を楽しんだりして、展覧会に自ら参加する楽しさを味わっていただけたかと思います。

展覧会で最も大切な展示に関しては岩田理事のご報告通り、全国の展示委員が議論し意見を集約し、S20号の本展との連携や各階や各部屋の特徴付けから２点入選横展示・モノクローム部屋等、新たな展示方法にも取り組んでいます。展示に一人でも多くの会員が参加して魅力ある展示を実現していきたいと思います。



絵画部　1階 1室

絵画部　表現価値に優れた作品群　第110回記念二科展 絵画展示

岩田　博

第110回記念展という大きな節目を迎え、新理事長のもと新たな体制で始動しました。一般応募者は、前年並みを維持しつつも、２点展示作品が増加し、結果として昨年度を上回る活気に満ちた出品状況となりました。

本展では、出品者一人ひとりの個性を最大限に生かしつつ、会場全体に流暢な動線を生み出すことで、観客に鮮烈な印象を与える新たな展示アプローチを追求しました。

各階・各室の配置プラン

１階(全15室)

◯１室～３室：新役員、内閣総理大臣賞、東京都知事賞受賞作、名誉理事、運営委員および各支部長の厳選された大作を配し、記念展にふさわしい重厚なスケール感を創出。大作が立ち並ぶ１階においては、作品と鑑賞者の距離を十分に確保。作品の持つスケール感が出るように追求しました。

◯11室～15室：「九室会」の先進性を継承する現代アート作品(11室)をはじめ、ベテラン作家の具象(12室)、会員推挙・会友受賞作品(13室)、そして現代的感性が光る優作(14・15室)へと流れる重層的な展開を試みました。

２階(全13室)

◯１室：特別賞、会友賞を集め、階全体のシンボルとして設置、入口正面に視線を奪う強力な作品を配することで、鑑賞者が自然な流れで奥の部屋へと誘われるスムーズな動線を創出しました。

◯９室～13室・他：会友推挙作品を整然と振り分けると共に、１～８室に分散させた２点入選作においては、作品相互の張りと調和を考慮した配列に注力しました。９室(会友モノトーン室)は近年増加傾向にあるペン・鉛筆によるモノクローム表現に着目し、特別部屋として新設。作品同士の描線の密度や明暗差が互いを引き立て合うように、壁面の余白と配架を徹底しました。

３階(全20室)

◯１・２・10・20室他：記念賞、特選・U35および２点入選作を振り分けて配置。U35奨励室には新人賞作品を配し、18室(初入選選抜室)には厳選された初入選作を集約することで、次代を担う若い才能の息吹を強調しました。

◯13室(50号選抜室)：小品でありながら密度の高い表現価値を持つ作品を優遇・評価する姿勢を視覚的に示しました。

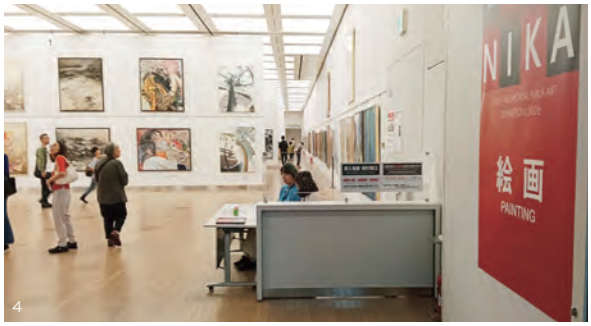
◯14室・他：人気あるアニマル表現作品、19室は一般モノトーン室、20室は次の世代を担う精鋭室としました。

各階・各部屋に鑑賞者の心に深く刻まれる「表現価値」を展示し出品者全員の表現意欲を一段と掻き立てる空間づくりを目指してまいります。


1


2


3



4


5


6


7

1：3F 1室・U35奨励室
　展覧会部長と委員が会場確認
2：1F 13室
3：初入選選抜室
4：2F 1室
5：50号選抜室
6：アニマルルーム選抜室
7：モノトーン選抜室

第110回記念二科展 受賞作品 ― 制作の視点



■内閣総理大臣賞　声が聴こえる　F200



■東京都知事賞　かしまし急行　185×260

内閣総理大臣賞　**石関 和夫**

変化の激しいこの地球で、人も動物たちも皆、生きづらさを抱えながら日々を過ごしている。現状を変えるのは難しいが、道はある。互いに寄り添う気持ちをもつことだ。静かに耳を傾ければ、今まで聴こえなかった声がきっと聴こえてくる。
そんなメッセージが伝わるといい。

東京都知事賞　**津田 佐千子**

おばさんと呼ばれるようになった私と仲間達がテーマ。街中で見かけるリミッター解除、無敵感漂うおばさま族。仕事と子も夫も育て気付けば人生半ば。もはや遠慮する理由もない。よくやってきた！もうええじゃないか！と愛すべき我らおばさま族の生態をブラックユーモアを交えて描いた。

第110回記念二科展 受賞作品



■二科賞　'26-1 みずべ　F100　小南治次



■パリ賞　あわいに残る　F100　相星有希



■SOMPO美術館賞
巨皮は命の夢をみる　F100　島崎紗椰



■上野の森美術館奨励賞
ケイトウ　F100　澤登千代子



■二科新人賞
待つとき　F100　上村惠美

私の選ぶ作品寸評―第110回会場から

2F 野平　2F 平林　3F 高畑



ドック・26-B

倉本 郁夫

縦横の線とドックの船やクレーンの構成によって、独自の絵画空間を表現している。赤と青を基調とした色彩の対比も印象的である。整理と省略を恐れずに自身の視点をさらに明確にすると、現実の風景を超えた強さが生まれるのではないだろうか。（野平 智広）



無言の絆

鈴木 綾子

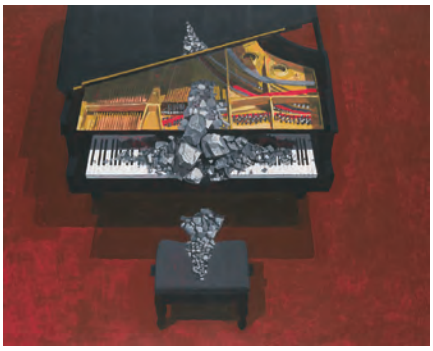
モノトーンでまとめられた、存在感の強い作品である。無数の筆触によって狼の姿を表現し、静けさの中に生命の息遣いが感じられる。ひとつの塊として見せる中にも、個々の存在に強弱がつくと、さらに深い作品になるのではないだろうか。（野平 智広）



Flower Tales

渡辺 美加

花店という日常的な空間を、点描による細密な描写と柔らかな光によって丁寧に描き出している。画面全体に温かな物語性が漂い、穏やかな時間の流れが感じられる。強さを見せるのではなく、静かに引き込まれる世界観が印象的な作品だ。（野平 智広）



rose

大井 孝信

ピアノと石という異質な要素を結びつけ、音楽を物質として可視化するような発想が興味深い作品である。表現したいものが「音」なのか「崩壊した存在」なのか、ピアノと石、背景との関係性をもう一歩掘り下げると、作品がさらに深まるのではないだろうか。（野平 智広）



群れ

西川 美優

着想のユニークさが光っている。分かりやすい場面設定で、女性のおかれた状況を想像し心がくすぐられてしまう。単一のテーマでなくバリエーションを増やし作品群を作る事、鑑賞者の想像力に委ね説明的になりすぎない事が大事。今後の展開に期待したい。（平林 直哉）



Wooden stairs in the forest Ⅰ

宮田 春奈

構図の取り方・タッチ・色合いが素晴らしい。森へ寄せる想い。静かな、熱い眼差し。その先に広がる光景に、見る人の心が引き付けられる。今回は２点の出品だったが、作品群としてより強くアピールする為に、数を増やす事にも挑戦してみて欲しい。（平林 直哉）

第110回記念二科展 受賞者

内閣総理大臣賞　石　関　和　夫［群馬］
文部科学大臣賞　荻　野　弘　一［新潟］
東京都知事賞　津　田　佐千子［石川］

（絵画部）

二科賞
小　南　治　次［滋賀］

パリ賞
相　星　有　希［鹿児島］

SOMPO美術館賞
島　崎　紗　椰［京都］

上野の森美術館奨励賞
澤　登　千代子［千葉］

会員賞
石　本　香　織［群馬］
稲　生　由美子［東京］
坪　田　裕　香［石川］

会友賞
石　井　晶　子［神奈川］
金　子　豊　実［埼玉］
楠　本　加津江［大阪］
塩　川　晴　美［静岡］
鈴　木　健　一［京都］
竹　中　美　浪［愛知］
益　原　礼　子［広島］
丸　山　良二郎［鹿児島］
渡　邊　恵　子［神奈川］

第110回記念賞
今　川　峰　子［愛知］
圓　戸　　智［富山］
河　合　蹟津子［愛知］
佐　藤　艸　石［福島］
柴　田　信　之［宮城］
曽　根　金　美［静岡］
松　本　泰　明［大阪］
丸　山　紀　行［京都］
南　川　美智子［愛知］
安　井　陽　子［京都］
吉　田　瀬　七［宮城］

特選
朝　比　智　美［三重］
石　坂　美代子［熊本］
大　澤　和　弘［愛知］
小笠原　弘　樹［東京］
小　澤　篤　子［茨城］
神　谷　　武［愛知］
木　村　弘　子［愛知］
下　向　栄　一［和歌山］
髙　柳　正　治［愛知］
三　浦　ミツエ［北海道］
三　好　優苺那［石川］
山　元　敏　弘［鹿児島］

二科新人賞
上　村　恵　美［富山］

会員推挙
小　川　幸　男［福岡］
小　南　治　次［滋賀］
近　藤　隆　弘［愛知］
今　野　真由美［神奈川］
島　崎　紗　椰［京都］
島　村　　薫［兵庫］
中　村　　稔［愛知］

会友推挙
小　野　唯希子［大阪］
加　藤　千保子［宮崎］
久　野　真　弓［愛知］
齋　藤　照　美［栃木］
坂　井　雅　子［茨城］
佐　野　義　博［愛知］
白　井　偉　之［福岡］
白　石　一　宏［宮城］
杉　森　　修［栃木］
瀬　川　ゆかり［京都］
滝　田　洋　子［埼玉］
津　野　勝　己［宮崎］
寺　澤　侑見子［愛知］
中　村　たみ子［宮城］
濱　本　安紀子［石川］
平　山　　輝［大阪］
山　崎　英　子［茨城］
山　本　由　貴［石川］
渡　邉　憲　司［茨城］

オーディエンス賞
西　川　美　優［石川］

（彫刻部）

二科賞
梅　田　勝　裕［東京］

ローマ賞
大　村　富　彦［静岡］

彫刻の森美術館奨励賞
佐　藤　来　夢［東京］

会員賞
多羅間　拓　也［京都］

会友賞
川　口　三千雄［東京］
佐　藤　しず子［宮城］
仲　子　亜　未［静岡］

特選
宇津見　樹　相［岡山］
髙屋敷　　哲［東京］
田　中　一　樹［滋賀］

カテゴリー30優秀賞
安　藤　英　次［埼玉］

会員推挙
古　森　清五郎［新潟］
玉　田　真　理［栃木］
与　島　　雪［富山］

会友推挙
笹　井　南　海［石川］
山　﨑　千　夏［東京］



幻想

堤　清治

心地よい乾いた色合いとフラットな画面。交差する人物や事物に、時の流れと共に清爽な風を感じさせる。画面に漂う謎めいたストーリーは見る人を惹き込む不思議な力を持つ。より大きな作品での展開が期待される。　（高畑 彰）



火の国風景

古賀 知雄

力強い色彩のコントラストが生む象徴的な画面。圧倒する力強い存在感は画面に施されたコラージュやマチエルによるものだろう。イメージを安定させる水平ラインのいくつかを開放するとさらに力が迸るように思う。
（高畑 彰）



追憶の欠けらⅡ

山田 公代

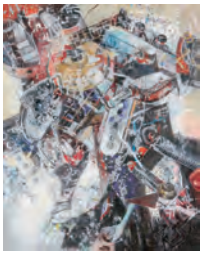
甘い詩情のベールに包まれた美しい作品。懐かしい優しさに満ち溢れた秋の風情は見る人を不思議な世界へと誘う。寄り添う犬からも作者の優しい心が感じられる。より大きな作品でこの世界を見てみたい。　（高畑 彰）

絵画部・彫刻部 新会員紹介



小川 幸男

独創的な作品制作に向けて、これからも継続して精進します。



幽玄

第86回 特選／第88回 会友推挙
第102回 会友賞／第110回 会員推挙



小南 治次

身近で目にする何気ない一コマに心惹かれます。そこに秘められたメッセージを描ければと思っています。



'26-1 みずべ

第104回 特選／第105回 会友推挙
2022春季展 春季賞／第107回 会友賞
第110回 二科賞・会員推挙



近藤 隆弘

ぼくの場合「美しさより迫力」。「“存在する形”より“創り出すかたち”」で、世界を表現したいです。今のところは、です。



記憶の飛翔

第106回 SOMPO美術館賞／2023春季展 7つの個出品
第107回 会友推挙／2024春季展 S20特別賞
第108回 二科賞／第110回 会員推挙



今野 真由美

日常の、時が経てば忘れてしまうような些細な経験や感情の揺らぎを表現したいと思っています。



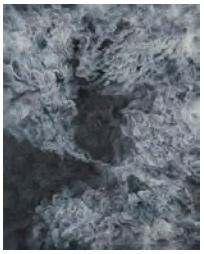
ひとりごと

第105回 特選／第107回 会友推挙
第108回 SOMPO美術館賞／第110回 会員推挙



島崎 紗椰

体の内と外の境界が揺らぐ眩暈のような瞬間。原初の生き物に宿っていた感覚を想像し、描きたい。



巨皮は命の夢をみる

第99回 新人奨励賞／第105回 会友推挙
第106回 会友賞
第110回 SOMPO美術館賞・会員推挙



島村　薫

花やグラスの繊細な佇まいに、揺らぐ視点の断片を重ねながら、透き通る静けさや儚さを描いていきたい。



stillness 2

第106回 特選／第107回 会友推挙
第108回 会友賞／第110回 会員推挙



中村　稔

緑は安全の色であり、安定の色であり、安心の色である。
神経を少しでも安静に保つ自然への
人間の安らぎを



残像②

第85回 特選／第94回 会友推挙
第107回 会友賞／第110回 会員推挙



古森 清五郎

創作の喜びを味わってしまい、抜け出せなくなって以来、推挙を頂き、また創作の喜びを続けることに感謝します。



いにしえの風(古の風)

第99回 特選／第103回 会友推挙
第107回 会友賞／第110回 会員推挙



玉田 真理

いつも二科会の皆様が優しく応援してくださるおかげで制作を続けられています。これからも頑張ります!!



車が来るまでくるまって

第103回 新人奨励賞／第104回 特選
第105回 会友推挙／第106回 会友賞
第110回 会員推挙



与島　雪

とても嬉しいです。
今回モデルになってくれた２匹の愛犬にお礼とご褒美をあげたいと思います。



なかなおりのまえ

第99回 新人奨励賞／第102回 特選
第103回 会友推挙／第109回 会友賞
第110回 会員推挙



彫刻部　展示日に参集した会員・会友・一般の出品者全員　2026年9月1日

彫刻部 総評

小田 信夫

８月からの引き継がれた猛暑の中、９月２日から14日に渡り第110回記念二科展が六本木の国立新美術館にて開催されました。今年の110回展が記念展である事も影響したのか、出品者が例年に比較し頑張って制作した為か、展示会場にはより緊張感が張り詰めた様子が漂っていたように見受けられました。

彫刻部の陣容としては、会員62点、会友15点、一般出品が71点であり、更に近年創設されたカテゴリー30部門には年々充実感が増してきた29点が出品されて展示構成され、それに加えて本展終了後に全国各地に於ける巡回展にて披露される10点を加え、その全容を披露する事となりました。二科会彫刻部の特色の一つである広い視野による多彩な作品のもと、鑑賞者が退屈する事の無いように会場に展示されてゆったりとした感じの空間を醸し出していたと思います。そして会場の中央を縦断するように展示された小品群であるカテゴリー30部門は、近年盛んに言われる公募展の宿命とも言える応募者の減少に対しての打開を目指したプランの一つであり、其のことを重要視した現れでもあり、そしてその成果と思しき状況も見受けられる所と成りつつあると思います。鑑賞者の動線を踏まえた上で、二科会彫刻部の姿勢を前面に押し出して、整理して展示する事を念頭に展示がされていたのも清潔感溢れるものになって良かったのでは無いでしょうか。また来館者の方に目を向けてみると我々の期待に応えるような親近感のある様子が見えて喜ばしく感じられました。そして来場者数も7万人を超える盛況との事、大変有難く感じた次第です。



雨の野外彫刻展示場



カテゴリー30展示



彫刻部展示室

第110回記念二科展 受賞作品 ― 制作の視点



紙の国の風　荻野 弘一



男と女　梅田 勝裕



Revelations-Crossing the river
大村 富彦

文部科学大臣賞　荻野 弘一

一人石と向かい合い自分の世界観を表現し続けてきた。二科展で作品を展示すると見えてくるものがある。作品が訴える力の乏しさ。縛りつけられた概念、理念、力量不足。多くのことを私に気付かせてくれる二科展での展示。二科展を大切に考え制作し続ける。

二科賞　梅田 勝裕

人体をモチーフに、人間の内面に宿る生命力や精神性を表現することを作品制作の柱としています。具象彫刻を通して、人間存在の本質と「生きること」の尊さを追求し、表現していきたいと考えています。このたびは二科賞を賜り、心より感謝申し上げます。

ローマ賞　大村 富彦

リベレーションズ（啓示）と名付けた作品の９作目になります。今回の内容は私と共に美術の勉強に研鑽を積み大河に乗り出す若者達の姿を具現化したものです。リベレーションズ前８作品は蠟を主材料にしてマッス：ボリュームと言う部分に主題を置かず情緒的なものを形にしてきました。今回は水粘土を使い格闘した末の形です。



風の情景　多羅間 拓也



雨宿り　川口 三千雄



風に見る　佐藤 しず子

会員賞　多羅間 拓也

私は、曲面を構成することで、風や気配が感じられるような造形に取り組んできました。この作品では、正面と裏面がつながる捻れた曲面と、穿たれてできた穴による空間のつながりで、風を感じる情景の中に美しいたたずまいを見せられる表現を試みました。

会友賞　川口 三千雄

今回テーマに、不安、希望。タイトル雨宿りとし、どんな雨降りも晴れる。違う素材感を組み合わせることで、石粉粘土の白色をより強調することで動物と雨の濡れた質感を表現し、臨場感を出すことに心がけました。

会友賞　佐藤 しず子

大地に身をゆだねる時
吹き抜ける風　澄んだ空気
草の匂い　土の感触
その感性をたしかめようと
造形しました。
作品の中にどのように表現するか、最後まで苦戦しました。

第110回記念二科展 受賞作品― 制作の視点



Scene 70 meimei　仲子 亜未



Monster Series―見てないモン―
宇津見 樹相



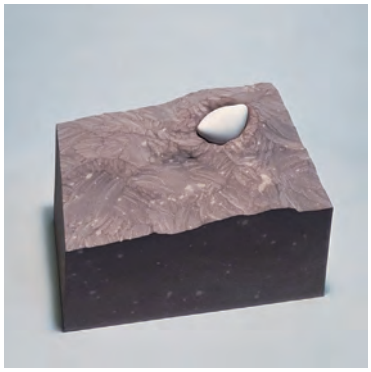
Again　田中 一樹



在り処　佐藤 来夢



よすがのほとり　髙屋敷　哲



たまごのなかで おこっていること
安藤 英次

会友賞　**仲子 亜未**

目前の物事に疑問を持つことをテーマに制作しています。モデルはChat GPTで生成した70歳の平均的な日本人男性。これは本当に人なのか。自問自答しながら、気づくとその殆どは「カタチ」について考えながら制作しています。

受賞作品寸評

彫刻の森美術館奨励賞　**佐藤 来夢**

「ついにこの世界からも二科へ」と感じた。球体関節人形を背景とした、人形なのか彫刻なのか、その境界を行き来する身体表現が新鮮だった。異なる造形表現が出会う場で、新たな可能性を感じた。（嶋崎 達哉）

特選　**宇津見 樹相**

加工が困難な石材を用いてキャラクターのモンスター制作に挑んだのか疑問を持ったが、本小松石の表皮の部分を巧みに使って表した大きな手や鑿とハンマーで時間をかけて形作ったことで、実材の存在感が作者の意図と共鳴したようである。（前田 耕成）

特選　**髙屋敷　哲**

何ものかに驚き、朽ちかけた電信柱へと駆け上った二匹の猫。緊張感の漂う一瞬の姿を淡い彩色による木彫に刻み表している。身近な生き物であるゆえ厳しい目で見られてしまうが、その視線を弾き返す、しなやかな強さを感じる。これからの作品が楽しみである。（信時 茂）

特選　**田中 一樹**

折れそうな気配の大きな黒い翼。ガムシャラな仕事。作者の極めて繊細な眼差しと周到な構想の存在を感受する。映画「国宝」の終盤に収められた舞踏家田中泯の演技を思い出した。ただ事ではない。久々に作者に会ってみたいと思わせる作品に出逢った。（神田 毎実）

カテゴリー30優秀賞　**安藤 英次**

計算された面を持つ方形の砂岩の形状が心地よい。大地の軌跡の様な上面に有機形態の大理石が埋め込まれ悠久の世界感を醸し出す。感性を研ぎ澄ましての制作姿勢が感じられる。（登坂 秀雄）

NIKA 110th 2026 event memo

9月2日　10:00　open



授賞式・懇親会　9月3日　12:00～　3階講堂


東京都知事賞　津田佐千子会員



絵画部・会員賞


文部科学大臣賞　荻野弘一会員



美術館講堂　懇親会会場


西会員を囲む歓談



初入選者紹介

絵画部 ギャラリートーク　9月6日　13:30～


ギャラリートークの進行を務める中原名誉理事


内閣総理大臣賞　石関和夫会員


パリ賞　相星有希さん


上野の森美術館奨励賞　澤登千代子会友


SOMPO美術館賞・会員推挙　島崎紗椰会友


二科賞・会員推挙　小南治次会友

彫刻部 ギャラリートーク　9月7日　14:00〜


ギャラリートーク開催挨拶　吉野理事長


ローマ賞　大村富彦会員


会友賞　仲子亜未会友


会友推挙　山﨑千夏さん


前田耕成会員



絵画部 作品研究会　9月3日　11:00〜

1F・2F・3Fの各展示室では担当会員が作品前で講評し、出品者との交流・研究の機会としました。

1F	13〜15室	米田整弘・皆川恵子
2F	1〜2室	瀧澤賢福・尾崎　功
	3〜5室	入佐美南子・谷口貞久
	6〜8室	井上裕義・石橋国夫
	9〜10室	茶谷弥宏・飯田由美子
	11〜13室	有泉　學・堀尾一郎
3F	1〜3室	柳田邦男・辻　富佐美
	4〜6室	及川英之・浅賀昌子
	7〜10室	高畑　彰・古保木雄一
	11〜12室（U35）	山下かじん・大島麻琴 野平智広
	13〜15室	村上雅洋・吉金幸枝
	16〜18室	村山成夫・石本香織
	19〜20室	渡辺倭文子・坊中靜六














■休憩室展示企画

1C / 1D：彫刻巡回作品展示
2A / 2B：「NIKA＋nika/S20号」特別展示
3A / 3B：2026春季二科展 水沢勉氏講演 ビデオ映像
「転生、転機、現在　二科会の歴史から」





〝新生二科〟を標榜して　吉野　毅

2004年12月、理事・監事・評議員合同会議が開催され、国立新美術館移転について、「理事会は協議した結果、国立新美術館に移転することを決定した。会員には今月中に文書で通知することになっている。文書も作成済みである」との一方的な報告に対し、「このような決め方は、理事会の暴挙である。臨時会員総会を即開催し、会員に移転の是非を問うべきである。会員から議論の場を奪うのか、議論をすることで組織は活性化するのである。社団法人としての手続きを無視してはいけない」との発言を繰り返す「総会を開催すべき」との複数の声に、理事会は会員総会開催を決断。2005年２月５日、会員総会に於いて、国立新美術館移転を決定。

2005年５月、国立新美術館移転実行委員会の委員長に指名される。なぜ私なのか、一瞬戸惑う。これまでの委員会が頭を過ぎる。委員会に権限を与えてくれなければ、簡単には引き受けることはできないと、理事会に「委員会に権限が欲しい」と要請、「生意気だ」との声もある中で、了承される。

続いて選挙対策委員会が設置される。二科会が組織改革に向かって動き出したのだ。2006年１月、役員選挙規定が理事会で承認される。「二科会の見識ここにあり」。凄いことが起きたのだ。これで本当の意味での「新生二科」を標榜することができる。

民主的な運営は今後も守っていかなければいけない。

第110回記念二科展　特別講演
「〝新生二科〟を標榜して」

９月12日　13:30～15:00　３階講堂

講師：吉野 毅 理事長

第１部　二科会結成から新生二科にいたるまでの経緯

第２部　我が彫刻を語る



◇二科ショップ・チャリティー報告





休憩室1A・1Bのショップでは、絵葉書・図録および、４部門会員チャリティ小品を展示販売致しました。第110回展チャリティ小品展の売上金は、能登半島地震支援金24万円、首里城歴史文化継承支援募金18万円、NHK厚生文化事業団12万円を寄付致しました。また、バックヤードに設置した令和８年熊本地震義援金募金箱への会員各位のご協力により、熊本支部を通じて二科会として10万５千円を寄付致しました。皆様の温かいご支援に御礼申し上げますとともに、ご報告申し上げます。

絵画部名誉理事

中島　敏明 氏



二〇二六年八月二十四日逝去
享年78歳

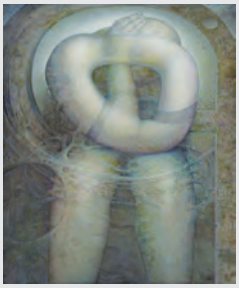
略歴

一九七五年　第60回展特選
一九七九年　第64回展会友推挙
一九八八年　第73回展会友賞
一九九四年　第79回展二科賞
一九九五年　第80回展会員推挙
一九九八年　第83回展
　会員努力賞
二〇〇二年　第87回展
　内閣総理大臣賞

中島敏明さんを悼む
生方 純一

第80回記念二科展で中島敏明さん、難波宏さんと私の三名が会員に推挙されました。難波さんは四年後に病没され、交流の機会は少なかったですが、中島さんと焼香に伺った記憶があります。

中島さんは２００１年に奥様を亡くされ、悲嘆にくれていましたが、奥様への愛情表現とも云える何とも言えない密度の濃い作品を描くようになり、それがその後の彼の作風となり、第87回二科展では内閣総理大臣賞に輝きました。



病む人の陰と影と翳
第109回展出品作

その後２００７年に川内悟さん、山中宣明さんと×４（バイフォー）グループを結成し、銀座や日本橋、新宿などで、その都度テーマを決めスタイルを変えてグループ展を開催。時には他の団体の会員を招いて合同展をしたり、二科の出品者の中から選抜して賑やかなグループ展も開催しました。

そして関西の中原史雄、黒川彰夫、宮村長氏、鹿児島の西健吉氏とイースト×４＋ウエスト×４として神戸の原田の森ギャラリーに大作を送って開催するなど、十数回に及ぶグループ展を開催。大いに二科の宣伝になったと自負しています。今はそのメンバーが二人欠けてしまいましたが、まだまだグループは続いています。

数々の思い出を残して逝ってしまった中島さんですが、どんな時でも真摯に取り組んでいた姿が目に浮かびます。

安らかなご冥福をお祈りいたします。

合掌

2027春季二科展へ向けて

来季の春季展について

山中宣明（絵画部代表・展覧会部長）

2027年～2031年の春季展は都美術館との新たな５年間の契約更新により、開催会場は１階から以前使用していたロビー階に戻り、会期は５月４日（火）～10日（土）の１週間に短縮されての開催となります。

この契約更新は開催期間や展示棟についての要望をアンケートでまとめたうえで申請され、希望通りの認可が下りました。これは過去５年間の春季二科展の様々な特別企画やS20号のコンクール形式の公募活動等が好評だったことから都美術館より高い評価をいただいた成果と言えます。

また事務局の尽力によりS20号企画も都美術館での直接搬入搬出や一次入落審査が可能になりました。追って新規約に明記し詳細を告知していくことになります。

来季の春季展は今年度の春季展の好評企画を踏襲しつつ、絵画部・彫刻部会員の実験的力作の展示を大黒柱として下記の春季特別企画を実施予定です。

① 絵画部は第110回記念展の記念賞・特賞・二科新人賞の受賞者21名の春季選抜展示、彫刻部も前年度受賞者の招待出品
② 個展形式は二科賞・SOMPO美術館賞・上野の森美術館奨励賞の受賞者がそれぞれ複数出品により個の世界を展示
③ NIKA+nika S20号コンクールは約200名の入選者・S20号の受賞者の展示

S20号最優秀賞は副賞として中和ギャラリーにおいて企画個展を開催できますが、第１回目の企画個展は2025年最優秀賞受賞者の笹島裕美さんが盛会にて６月に終了しました。2026年最優秀賞受賞者の安井陽子さんもすでに2027年６月に同ギャラリーでの企画個展開催が決定しています。優秀賞やオーディエンス賞受賞者の本展での特別展示も継承いたします。春季特別講演も水沢勉氏を招き参加者に多くの啓示をいただきましたので、来期にも有意義な企画が望まれるところです。

今後の５年間の春季展を充実させることに努力していくとともに、春季展の開催の是非や春季展の在り方を論議していく検討委員会が設置されますので、会員の皆さんが望む方向性を活発に意見交換、検討していくことになります。

2027春季二科展 S20号 応募規約
⬅こちらからダウンロードできます

2027春季二科展　日程

4月18日（日）絵画部作品搬入（東京都美術館地下3階 第3作業室A）
4月20日（火）絵画部S20号審査
5月2日（日）/3日（月）彫刻部作品搬入（東京都美術館地下3階 審査室A）
5月3日（月）展示日
5月4日（火）初日
5月5日（水）授賞式
5月8日（土）支援講座・ワークショップ（予定）
5月10日（月）搬出

2027春季二科展選抜出品予定者

■絵画部

（個展選抜）

小南　治次（新会員・二科賞）
島崎　紗椰（新会員・SOMPO美術館賞）
澤登 千代子（会友・上野の森美術館奨励賞）

（一般）

朝比　智美［三重］
石坂美代子［熊本］
今川　峰子［愛知］
上村　惠美［富山］
圓戸　　智［富山］
大澤　和弘［愛知］
小笠原弘樹［東京］
小澤　篤子［茨城］
神谷　　武［愛知］
河合蹟津子［愛知］
木村　弘子［愛知］
佐藤　艸石［福島］
下向　栄一［和歌山］
髙柳　正治［愛知］
丸山　紀行［京都］
三浦ミツヱ［北海道］
南川美智子［愛知］
三好優苺那［石川］
安井　陽子［京都］
山元　敏弘［鹿児島］
吉田　瀬七［宮城］

■彫刻部

（会友）

梅田　勝裕［東京］
川口三千雄［東京］
佐藤しず子［宮城］
仲子　亜未［静岡］

（一般）

佐藤　来夢［東京］
宇津見樹相［岡山］
髙屋敷　哲［東京］
田中　一樹［滋賀］
安藤　英次［埼玉］

彫刻部参与
工藤　健　氏



二〇二六年十月二十三日逝去
享年89歳

略歴
一九六二年　第47回展特選
一九六三年　第48回展会友推挙
一九六五年　第50回展二科金賞
一九六六年　第51回展会員推挙
一九七三年　第58回展　会員努力賞
一九九一年　第76回展　文部科学大臣賞

工藤先生を偲んで

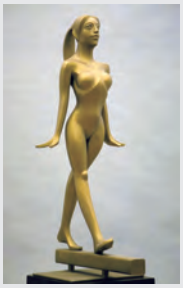
阿部 昌義

「皆さん、入院おめでとう！」先生の第一声に、私は「ん？」と、すぐには理解できず、これから始まる大学「院」生活の始まりに贈られた言葉だったのです。しかしその言葉が、以後約40年、益々のめり込んでいくことになる「彫刻」という領域への入り口とは、その時は思いもしませんでした。会友推挙の際には、「まずは、おめでとう！　あとは知らんぞ？」と。思えば、先生のお言葉には、私の思いもよらない含みがあり、第一声から驚かされることが多くありました。

先生のご功績は、皆さんもご存じのとおりで、二科展では言うまでもありませんが、公共的な野外彫刻をはじめ、社会の中で作品を発表し続けてこられ、数々の受賞をされています。また、後進を指導されてきた歩みの集大成として、技法全集＋DVD『塑像への誘い』を制作されました。発刊された際には、私の職場である美術館にも多くの問い合わせがあり、若い指導者たちにとって、今も大きな助けとなっています。

学生時代からお世話になった私にとって、先生は、近すぎず遠すぎず、いつも見守ってくださる存在でした。カメラを片手に写真談議に花を咲かせ、さまざまなお話を聞かせてくださった時間は、優しさと楽しさに満ちた、忘れがたい思い出です。工藤先生、ありがとうございました。「あとは、私たちに！」どうか安らかにお眠りください。

合掌



ちょっと気取って
第101回展出品作

絵画部会員
馬場　一郎　氏



二〇二六年八月八日逝去
享年90歳

略歴
一九七四年　第59回展特選
一九七七年　第62回展会友推挙
一九八一年　第66回展会友賞
一九八八年　第73回展会員推挙
二〇〇一年　第86回展会員賞



蓮田に因す　第104回展出品作

絵画部会員
藤谷　進　氏



二〇二六年七月三十一日逝去
享年84歳

略歴
一九九八年　第83回展特選
二〇〇四年　第89回展会友推挙
二〇〇七年　第92回展会友賞
二〇一三年　第98回展会員推挙
二〇一六年　第101回展会員賞



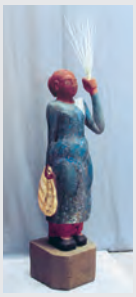
Letter　第109回展出品作

彫刻部会員
鷲崎　直子　氏



二〇二六年十一月二日逝去
享年79歳

略歴
一九七一年　第56回展特選
一九七三年　第58回展二科銀賞
一九七四年　第59回展会友推挙
一九七五年　第60回展
　60周年会友特賞
一九七六年　第61回展スペイン賞
一九七八年　第63回展二科賞
一九七九年　第64回展会員推挙
一九八三年　第68回展会員努力賞
二〇一〇年　第95回展
　文部科学大臣賞



風袋　第110回展出品作

事務局だより

記念展の年であった秋の二科展は大盛況のうちに無事終了する事ができました。そして記念巡回展も開催地支部の皆様のご協力のもと、運送や保険の見直しも行われ、各都市を効率よい日程で順次開催されております。

■トピックス

◆石附進名誉理事が100歳を機に退会の意向を示されました。会からは百寿のお祝いと長年のご功労に感謝し、感謝状と記念プレートを贈呈しました。

◆二科宮崎支部の森山支部長（会友）の退会に伴い、新支部長に髙橋和平会員が就任しました。

◆生誕130周年東郷青児展
2027年3月6日(土)
～3月28日(日)
於：SOMPO美術館
絵画約100点とデザイン資料を公開。二科会後援。

◆リニューアルHPと二科展をリアルタイム発信するインスタグラムが各地巡回展会場を案内します。

二科会HP

Instagram

一つの展覧会開催には沢山のアイディアと努力の結集が不可欠ですが、年齢を感じさせない先生方の熱量に心より感謝申し上げます。

節目の年に合わせてリニューアルしたスマホ対応の二科会公式HPは、リアルタイムのインスタの発信と相俟って大きな効果を発揮しました。ソーシャルメディアチームの弛まない発信により、二科展のビジュアル情報の魅力が若い世代へ広がりつつあるのを感じます。「バズる」という現象を身近で目にしたのもその一つでした。公式HPでの入選者発表表記は来年から入選通知に変わる形となります。

現在、問いかけに瞬時に回答するAiの勢いは凄まじく、驚く程です。「絵画・彫刻・デザイン・写真の作品が出品でき、社会貢献や人材育成にも力を入れている公募団体は？」との問いにAiは「二科会」を筆頭に表記していました。

物事は表裏一体、便利になった反面、情報漏洩が驚異となっている昨今です。何を大切にして次の10年に向かうのか、理事会や運営委員会、各部会等で迅速な検討が必須です。

地震や災害が多い日本。世界情勢も予断を許さない昨今。この時代に公益社団法人二科会が、義援活動や支援活動、そして二科会に貢献して下さった方々に感謝の意を表す事の出来る、そのような団体であることに誇りを感じます。

事務局長　塙　珠世

第110回記念二科展 概要

表1

	入場者	（前回比）
一般当日	4,272人	（896減）
前売り券入場	2,414人	（10減）
高校・大学	509人	（356減）
チラシ割引	641人	（167減）
団体割引	50人	（38減）
企画割引	360人	（62増）
新聞社優待券	145人	（28増）
有料入場者	8,391人	（1,377減）
無料入場者	61,755人	（2,714増）
入場者合計	70,146人	（1,337増）

表2

搬入点数	110回記念展(昨年比)
絵画・一般	1,506点　（18減）
絵画・会友	606点　（36減）
彫刻・一般	100点　（22増）
彫刻・会友	15点　（5減）
合計	2,227点　（37減）

表3

展示（遺作含む）	人数（前回比）	点数（前回比）	35才以下出品者数（前回比）	35才以下応募・在籍数（前回比）
絵画・一般	618名（14増）	604点（89減）	59名（5増）	60名（5増）
絵画・会友	204名（56減）	260点（10減）	4名（3減）	6名（2減）
絵画・会員	167名（3減）	167点（3減）	−	−
彫刻・一般	67名（1減）	67点（1減）	24名（2減）	27名（±0）
彫刻・会友	15名（5減）	15点（5減）	1名（2減）	1名（2減）
彫刻・会員	53名（±0）	72点（3増）	−	−
展示合計	1,124名（53減）	1,279点（88増）	88名（2減）	93名（±0）

編集後記

◆彫刻部の集合写真は展示日に参集した会員、会友、一般の出品者全員のものです。彫刻は重量物や構造が複雑な作品があり、出品者が協力しながら展示を行っています。（前田）

◆記念展を彩った企画や会場風景、担当役員ならびに会員各位からのご寄稿を収録し、記録性を重視した編集に努めました。表紙・紙面構成に、新たな風への期待を託しています。（野村）

◆新しい機関誌のあり方を模索したり、これまでの伝統をつなぐことを使命として感じたりする。新しいこと、変化させる事は好きだが、これまで変えられなかった部分にも価値がある。継承したい。（山口）

令和八年十一月十日発行
公益社団法人　二科会
〒160－0022
東京都新宿区新宿4－3－15
レイフラット新宿　501号室
電話　03(3354)6466
FAX　03(3354)4768

編集委員
委員長（絵）山口博司
委員（絵）渡辺倭文子
〃〃酒井とし子
〃〃山岡明日香
〃（彫）佐々木至
〃〃角谷豊明
担当役員　前田耕成
〃　野村みそら
寺田眞

★ 二科ニュースweb入稿用アドレス：**newsnika@gmail.com**